



まなび舎



皆さまの令和6年が始まりました

校長 岡戸 良雄

令和6年が始まりました。このまなび舎を御覧いただいている皆様にとって、楽しく実りある一年であることを祈念いたします。年始の一日には石川県を中心とする大地震が発生しました。能登半島では津波の被害も観測されたとの報道です。家族や親戚が集い、楽しい一年の始まりを祝っていた被災地の皆様にとって、まさに寝耳に水の出来事だったのではないのでしょうか。道路、電気、水道等のインフラが大きなダメージを受けているとの報道もあります。東京の地でできることは限られていますが、都民の一人としてできる支援に努めたいと思った元日でした。

新型コロナウイルスの法律上の扱いも変わり、流行前の日常にほぼ近づいた年末年始であったことと思います。皆様はいかがお過ごしだったでしょうか。本校では、年明けの1月4日に校内全域の消防設備の点検を行い、いざ災害が発生した際には、必要な放送機器等が作動するかの確認を行いました。また、5日には電気設備点検も実施して、新学期から不自由なく教育活動が行えるように備えています。全校に影響し、長時間に及ぶ点検等は、生徒が登校しない日を選んで実施しています。

本日9日より3学期が始まります。1年生、2年生にとっては、これまでの学習のまとめと成果を示す時期となります。3年生は、いよいよ港特別支援学校を卒業して社会に羽ばたく時期を迎えます。生徒の皆さんは一年間を保護者の皆様とともに振り返り、令和6年の目標を見出してほしいものです。

12月の終業式で、校長講話として「こころもからだも大切に」という話をしたところです。昨今身体的な暴力や暴言だけではなく、性被害について児童・生徒を守る取組が東京都全体で行われています。相手のことを思いやる気持ち、自分のことも自分で大切にすることを大切にすることとともに、友達や自分が被害に遭いそうになった時、または万が一遭ってしまった時には、信頼できる大人や相談先に連絡するようにとの話をしました。お子様が終業式に持ち帰ったプリントに「被害に遭ったときには・・・」の相談先などが記載されていますので、御覧いただいた方も多いのではないのでしょうか。

今後も引き続き、各学級や授業において「心の指導」を継続することで相手を思いやり、良い言葉がたくさんあふれる学校を目指してまいります。また、卒業後の社会の中で不安や苦しさを感じた時に、誰かに相談することで心配事の解決につながることを知り、一人で抱え込まず、友達や身近な大人に相談できる力を身に付けてほしいと願っています。

今年も皆様の御支援・御協力のもと、教育活動を推進してまいります。よろしくお願いいたします。

今年度の校内研究について

研究部主幹 南 拓人

令和5年度は、TOKYO スマート・スクール・プロジェクトの考え方にに基づき、学校研究テーマを「ICT・一人1台端末で変わる授業・できる授業～卒業後にくらしに活かせる力の獲得「できる」から「つかう」を目指して～」と題し、授業研究を行っています。教員の一人一回研究授業を掲げて、授業実践を積み重ねているところです。

TOKYO スマート・スクール・プロジェクトとは、学び方・教え方・働き方の三大改革のことです。学び方については、主体的・対話的な学び、個別最適化された学びの実現に向かっていきます。また、働き方については、ICT 支援員の活用や Microsoft Forms、Microsoft Teams などを用いた研修会を夏に実施しました。これらにより、校務の効率化を図ることで子供たちと向き合う時間を確保し、授業研究に向かっていく最中です。

今年度の一人1台端末の活用例として、個々の異なる実態に応じた理解を促すための活用、個々の課題の振り返りとしての活用、イメージをデザインするための活用、コードを用いた曲作りとしての活用、共同編集としての活用など、各教員の様々な工夫が見られ始めています。中重度の障害のある生徒の一人1台端末の活用法については全都的な課題となっていますが、カメラやビデオ機能を活用するなど、主体的に取り組める実践について試みているところです。引き続き、継続した課題として取り組んでいきます。